



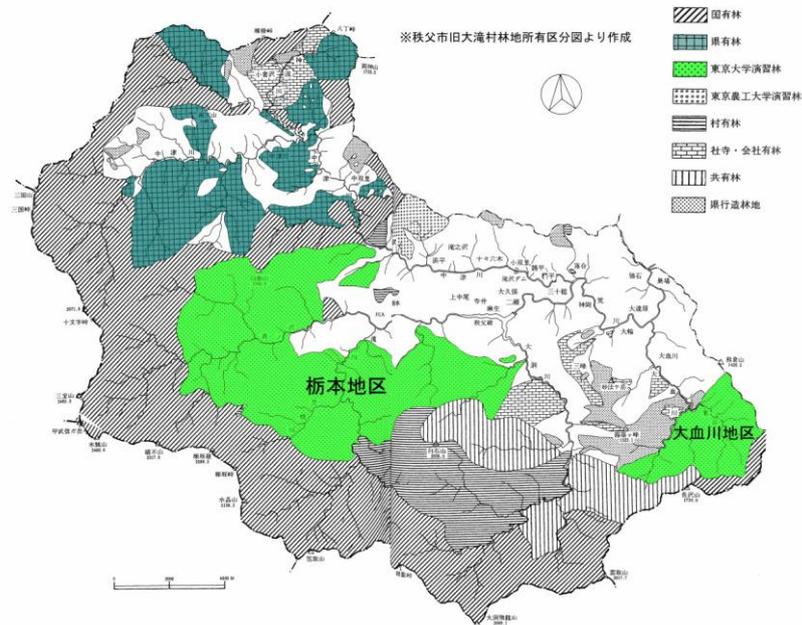
# 企画展「本多静六と秩父の山林」解説シート

## ■本多静六、奨学金創設を条件に埼玉県に山林を寄附

本多静六と秩父との出会いは、本多が教授となった明治33年(1900)頃に始まります。その頃まとまった貯金ができただけでなく、秩父市中津川の原始林4,000余町歩(約4,000ha)を、立木と一緒に平均1町歩4円で買入れたのを手始めに、数年間で8,000余町歩の山林を購入したといわれています。

その後、大正5年(1916)に所有する秩父の山林3,000余町歩を東京大学に売却し、昭和5年(1930)には残りの全部を、秩父地域の振興と奨学金の創設を条件に埼玉県に寄附しました。県では、昭和29年(1954)から「本多静六博士奨学金」の貸し出しを始め、これまでに2,000人を超える学生が利用しています。

## 県有林と東京大学秩父演習林の分布



## ■秩父演習林が間もなく100周年

大正5年(1916)に本多ら民間人が所有する山林約6,000haを購入して設立された東京大学秩父演習林は、平成28年(2016)に100周年を迎えます。秩父演習林は、秩父市街西方22kmにある大血川地区(923ha)と同じく西方40kmにある栃本地区(4,875ha)とに分かれ、関東地方の山地帯から亜高山帯に広がる標高差1,400mという変化に富んだ森林を有しています。



本多静六博士ゆかりのケヤキ林(大血川ケヤキ平)



本多静六博士ゆかりのスギ林(大血川ケンカ平)

## ■東京大学演習林

演習林は、森林や樹木、林業に関する基礎的・応用的研究を行うとともに、森林を学習する学生たちに教育の場を提供することを目的として設置されました。最初の演習林が本多により千葉県清澄(鴨川市)に明治27年(1894)に設置されて以来、今日まで120年以上の歴史があります。秩父演習林は、現在、全国7ヶ所にある東京大学演習林の一つで、本多に深いゆかりがある演習林の一つです。



## ■本多静六、最後の秩父旅行

本多静六と秩父との関係は 50 年以上に及び、その間本多はたびたび奥秩父を訪れています。最後の訪問となったのは亡くなる 2 年前の昭和 25 年（1950）7 月の視察旅行でした。この年の秩父訪問は、埼玉県知事からの招請が一番の理由と思われますが、同年 7 月 10 日に秩父多摩地域一帯が国立公園に指定されたこと、さらに前年の昭和 24 年（1949）11 月に中津川の県有林事務所前に、本多らが寄贈した県有林の記念碑が建てられたこと等が背景にあったと考えられます。国立公園の創設に力を入れていた本多にとって、秩父多摩国立公園の指定は大きな喜びであったと想像されます。



県有林の記念碑

## ■12 泊 13 日の大旅行

昭和 25 年の秩父視察旅行は埼玉県の林務課が中心となって、7 月 28 日の知事との懇談会を中心に、次のような日程が組まれました。本多は日程作成にあたり、「隔日休養」「旅行的に楽な日程」を希望するとともに、食事については「尚毎日の食（べ）物は、うどんかソバ又は粥と味噌だけで結構です」という、受入側への気遣いもみせています。

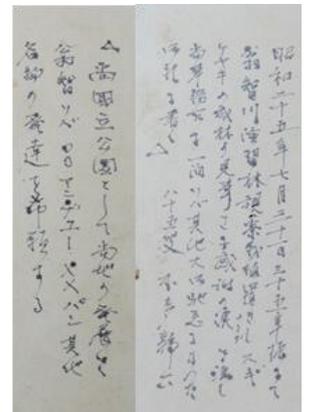
大山沢入口にて  
（昭和 25 年 7 月 24 日）  
本多静六、山根課長



## ■昭和 25 年（1950）本多静六博士視察講演会旅行日程

	月 日	曜日	視察町村	宿泊地	摘 要
1	7 月 21 日	金	野上町	長瀨・長生館	（林業指導所山田淳の計画による）
2	7 月 22 日	土	国神村	長瀨・長生館	公民館において講演会（林業指導所山田淳の計画による）
3	7 月 23 日	日		秩父市	休養（林業指導所山田淳の計画による）
4	7 月 24 日	月	大滝村	大滝村県有林事務所	秩父市より中津川県有林事務所に至る
5	7 月 25 日	火	大滝村	大滝村県有林事務所	県有林視察又は休養
6	7 月 26 日	水	大滝村	大滝村県有林事務所	
7	7 月 27 日	木	大滝村	三峰神社	中津川県有林より下山、三峰山に至る
8	7 月 28 日	金	秩父市	秩父市	三峰山より下山、秩父市に至る 13 時林業関係座談会（知事出席）
9	7 月 29 日	土	大滝村	大血川東大演習林宿舎	秩父市より大血川演習林に至る
10	7 月 30 日	日	大滝村	大血川東大演習林宿舎	演習林ケヤキ林視察休養
11	7 月 31 日	月	秩父市	秩父市	大血川演習林下山、秩父市に至る
12	8 月 1 日	火	秩父市	秩父市	秩父セメント、秩父鉄道、山林関係講演
13	8 月 2 日	水			秩父市より帰宅

※「中津川県有林記録」より作成。秩父市内では「竹寿館」「梅之家」という旅館に宿泊したが期日は不詳。野上村は現長瀨町、国神村は現皆野町、大滝村は現秩父市。



大血川作業所芳名録より本多静六博士記入部分抜粋

昭和二十五年七月三十一日 三十五年振にて  
翁智（大血）川演習林視察 我植置きしスギ、  
ケヤキの成林の見事さに涙（シミダ）を流し  
当事務所に一泊 ソバ其他大御馳走になった  
御礼に書く △ 八十五叟 本多静六  
△ 尚国立公園としての当地の発展と  
翁智ソバ、○マンデュー、××パン其他  
名物の発達を希願する

■昭和 25 年（1950）本多静六博士秩父視察旅行写真（本多家文書より）



大滝村強石 高野氏記念碑にて  
（昭和 25 年 7 月 22 日）



大若沢の県営製炭所にて  
（昭和 25 年 7 月 24 日）



本多先生の強力を勤める佐藤技師  
（昭和 25 年 7 月 24 日）



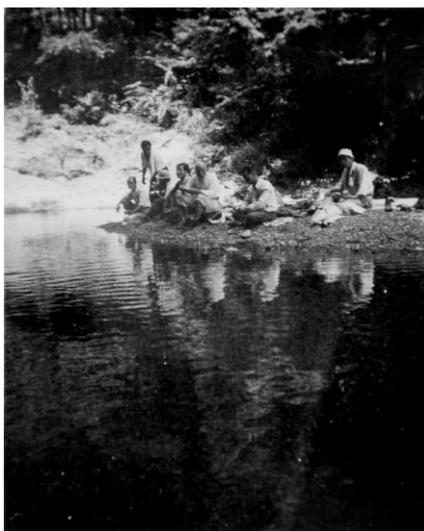
大若沢よりトロリーにて向う本多先生  
（昭和 25 年 7 月 24 日）



橋を渡る本多先生が目をつむって“南無阿  
弥陀仏”（昭和 25 年 7 月 24 日）



山歩きの疲れで溪流に夢をむすぶ本多先  
生（昭和 25 年 7 月 24 日）



溪流で憩う本多先生  
（昭和 25 年 7 月 24 日）



山吹谷よりの帰り道の溪流にて  
（昭和 25 年 7 月 25 日）



県有林記念碑にて  
（昭和 25 年 7 月 25 日）



東京大学大血川演習林作業所での記念撮影  
右から、佐々木あき、本多静六、山田とよ、  
住田芳太郎、山本正一、山中峰治、馬場弘  
(昭和 25 年 7 月 30 日)

### ■県有林記念碑翻刻

樹徳千載

農林大臣森幸太郎題額

中津川県有林ハ、本県秩父郡大滝村大字中津川に在りて、四方里の山谷に亘り、台帳面積四千八百三町歩の地域を占む。実に本県出身の林学博士本多静六氏、その息博氏と鈴木清次氏の篤志寄付にかゝる。昭和五年十一月五日、三氏その意を本県に致すや、同七日県参事会その受入を決し、更に昭和六年の通常県会に於て、中津川県有林管理条例の設定を見、これを特別会計に付して、その管理経営を図る。爾後二十有余年の施設開発の概況を記せば、先づ大滝村十々六木ヨリ中津川地内に至る幹線林道を計画し、昭和七年十一月起工、同十二年二月成る。延長一万五千米、工費十一万五千元ハ大蔵省預金部低利資金による。次で林野実測・共有土地分割・境界設定施業計画案編成等を実施して根本方針を樹て、昭和九年皇太子殿下誕辰記念造林の企あるや、四百四十七町歩の適地に植林して、昭和二十一年に及べり。尚本県有林の管理の為に、昭和十三年中津川の地に県有林事務所を置き、且林野警察官を配して、その保護に努む。今や治山治水の要望切なるに当り、満目の美林ハ山谷を被ひ、林道坦々その間を縫ふて、生産觀光共に利を享け、加ふるに県財政永遠の資源を成して年毎に恵沢を大にす。あゝ三氏の徳亦偉なりと言ふべし。依て茲にその沿革を誌して之を後昆に明かにし、併せて山林愛護の資に供せむとす。

昭和二十四年五月

埼玉県知事大澤雄一識

竹逗鳥塚勇三郎書

寄居町中川仙石鐫

### ■展示資料一覧

窓鋸、サイレン、風向風速計、ポケットコンパス、秩父演習林主要樹木材鑑、材鑑、大血川演習林芳名録、三尺（さらしの帯）、昭和 25 年本多静六博士秩父視察旅行写真パネル、秩父演習林の季節の花々写真パネル（フサザクラ、エイザンスミレ、フデリンドウ、オオコガネネコノメソウ、ハウチワカエデ、ヤマブキ、アカヤシオ、ムラサキケマン、マムシグサ、クマガイソウ、シャク、ウワバミソウ、コゴメウツギ、ヤマアジサイ、ウツギ、ギンリョウソウ、アオハダ、フシグロセンノウ）

### ■資料提供・協力機関

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部、東京大学秩父演習林、東京大学千葉演習林、埼玉県農林部森づくり課、秩父市、秩父市教育委員会

(平成 26 年 9 月 28 日、久喜市教育委員会文化財保護課発行)